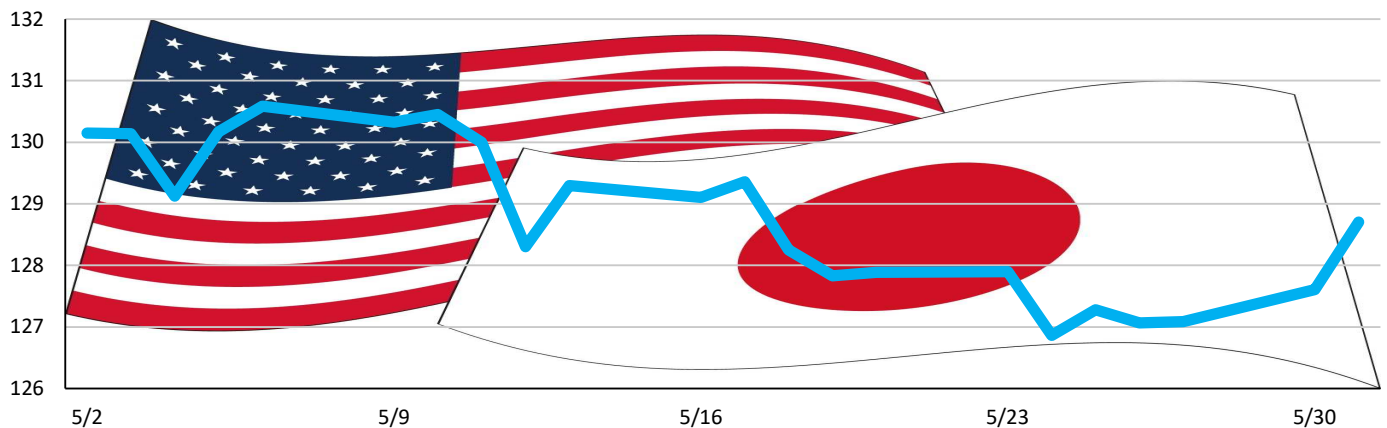


MARKET REVIEW

先月の振り返り：5月のドル円相場は131円半ば～126円半ばで推移。注目の米FOMCで0.5%利上げが決定したものの、一部で期待された0.75%利上げ観測を否定されたことでドル円は128円半ばまで急落する場面もあったが、米国利上げ継続方針に変わりはないことで再びドル買いが活発となり131円35銭まで円安ドル高が進行。ただ急速な利上げの影響による金融引き締め懸念や中国経済の失速懸念などを背景に株式市場が急落したことでリスク回避の動きが広がり、126円36銭まで反落した。その後のドル円は127円を挟んだ展開となったが、株式市場が持ち直してきたことや中国上海市のロックダウン解除の報道を好感したリスク選好の動きが広がり、ドル円は128円後半まで上昇し5月を終えた。

(円)

米ドル円為替レート(終値ベース)



EXTRA VISION

今後の展開：ドル円は5月に131円35銭をつけた後、ウクライナ問題や新型コロナによる世界経済への影響を懸念した動きから上昇は一段落しているが、中国上海市のロックダウン解除をきっかけに、再び日米金利差を背景としたドル買いの流れが強まっている。ただ月中に予定されている米FOMCを控えているため、それまでは今後の利上げ見通しをめぐり売り買いが交錯していきそうだ。また米FOMC後には日銀金融政策決定会合も控えており、こちらは金融政策に変更はないとみられるが、会合後の黒田総裁の発言には注意を払っておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
6 / 16 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
6 / 16 (木)	20 : 00	GB	英中銀政策金利	☆☆☆☆
6 / 17 (金)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
6 / 29 (水)	21 : 30	US	米GDP確定値	☆☆☆☆
7 / 8 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
7 / 13 (水)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
7 / 15 (金)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。